Vol.1　創刊号　　2026年10月発行

嚥下の未来 *booklet*



特集

飲み込めなくても、豊かな“食”と人生はある

研究のいま ／ ことばの小事典

株式会社 嚥下の未来

ご自由にお持ちください

創刊にあたって

今だからこそ、“食”を考えてみることからスタートしたい

科学的視点を持って「味わえる可能性」を追求し、飲み込めなくなってしまった方にも“食”のよろこびを感じていただける未来――そんな未来を目指したいという強い想いから生まれたのが、株式会社嚥下の未来です。嚥下の未来が所属するopsolグループは、20年以上にわたり、ケアの現場を見つめてきました。その中で非常に重要な鍵のひとつであると感じ、その思いが増し続けてきたのが、「嚥下」です。嚥下について複合的に考え、その未来を切り拓いていきたい。その活動に注力するため、新たに当社を設立し、覚悟を持って臨んでいくことといたしました。

そんな私たち嚥下の未来が重点的に取り組んでいくことのひとつが、「嚥下」をキーワードとして、摂食、口腔内環境、科学的アプローチ、可視化、といったことと向き合いながら、みなさまとともに様々なことを考えていくために、積極的に情報を発信していく、ということです。その活動の一環として、本書『嚥下の未来 booklet』を刊行させていただくことといたしました。

その記念すべき創刊号。何をテーマにするか？を慎重に考えた結果、“食”とはそもそも何なのかを考えてみたい、原点とも言える場所に立ち返ってみたい、と考えるに至りました。飲み込めるかどうかだけで、“食”のよろこびや人生の豊かさが決まるわけではない。それが、私たちの考えです。

“食”について改めて考えることによって、嚥下や摂食、また、それに関連する様々な取り組みが目指すべきことの本質を見つめ直し、より多くの方の人生が豊かなものになるように。私たちとともに、嚥下の未来を考えるための足がかりとして、今一度“食”について考える機会としていただけましたら、うれしく思います。

株式会社嚥下の未来　代表取締役社長　**鈴木 征浩**

CONTENTS

特集

03　**飲み込めなくても、豊かな“食”と人生はある**
04　私たちが考えてきたこと
05　私たちの考え
06　実現したいこと

連載

07　**研究のいま**
「ひとりの食卓」と「誰かとの食卓」
07　**ことばの小事典**
嚥下／摂食／咀嚼／誤嚥 ほか

特集

飲み込めなくても、豊かな“食”と人生はある



季節の香り、器の彩り、食卓に響く笑い声。私たちは、そうした“食”のある風景の中にこそ、人生の豊かさが宿っていると考えています。

opsolグループは、「飲み込む」という営みを大切にしながら、その先にある“食”のよろこびを見つめてきました。本特集では、私たちがこれまで考えてきたこと、いま考えていること、そしてこれから実現したいと願う世界について、お伝えします。

私たちが考えてきたこと

飲み込めなければ、“食”は完結しないのか？

“食”は、栄養を摂り、命をつなぐための営みです。けれども、私たちが“食”に心惹かれるのは、それだけが理由ではありません。

口に含んだ瞬間に広がる味わい、鼻に抜ける香り、器の彩り、旬を告げる食材。故郷の味や、大切な人と囲んだ食卓の記憶。“食”は身体を養うと同時に心を満たし、人と人とをつなぎ、その人らしい暮らしを形づくっています。

“食”は、「飲み込むこと」で完結するものと考えられがちです。しかし、味わう、香りを感じる、食卓を囲む、記憶を分かち合う――“食”のよろこびの多くは、飲み込むことの外側にも広がっています。嚥下（えんげ）に向き合う会社だからこそ、飲み込む力を支えることを目的ではなく手段と捉え、その先にある“食”のよろこびを見失わずにいたい。それが、私たちの出発点です。



“食”を形づくるもの

身体
栄養と水分を、生きる力に変える

心
味わい、香り、季節や思い出を楽しむ

口
噛み、まとめ、味を感じる入口

つながり
誰かと食卓を囲み、言葉を交わす

私たちの考え

飲み込めるかどうかと、“食”を味わえるかどうかは、別のこと

確かに、しっかりと噛み、安全に飲み込める身体の機能があることは、豊かな“食”につながりやすいものです。私たちも、その機能を守り、支えることに力を尽くしています。

しかし、一つの問いが私たちの中から消えることはありません。病気や加齢によって飲み込む機能を失った人は、もう“食”のよろこびに触れることはできないのでしょうか。豊かな人生を送ることは、できないのでしょうか。

何度考えても、私たちの答えは同じです。それは違う、と。

飲み込むことが難しくなっても、その人の人生から“食”が消えるわけではありません。好きな料理の香りを楽しむこと。家族と同じ食卓に着き、季節の話をすること。かつて囲んだ食卓の思い出を語り合うこと。そこには確かに、“食”のある風景があり、豊かな時間があります。

飲み込む力を失った人は、もう満ち足りた日々を送れないのか。
私たちは、それは違うと考えます。

私たちが大切にしている、二つのこと



飲み込む力を、大切に守る

嚥下の状態を正しく知り、口腔内環境を整え、その人に合った食事の形を整えること。



飲み込めるかどうかだけで、人生の豊かさを測らない

飲み込む力の有無にかかわらず、その人にとっての“食”のよろこびを探し続けること。

実現したいこと

飲み込めなくても、“食”のよろこびがある世界へ

私たちが目指すのは、「飲み込めなくても、味わえる」「飲み込めなくても、人生は豊かでいられる」と、誰もが思える世界です。

ここでいう“食”とは、食物を飲み込むことだけを指すのではありません。味わうこと、香りを感じること、食卓を囲むこと、食をめぐる会話や記憶を分かち合うこと。そのすべてが、“食”という営みの一部です。

飲み込む機能を大切に守りながら、たとえその機能が失われても、一人ひとりが“食”のよろこびに触れ続けられるように。医療・介護・食の専門職、そしてご本人やご家族と共に、その方法を一つずつ探り、形にしていく。それが、株式会社嚥下の未来の願いです。

嚥下の未来の挑戦　新しい食品・製品開発

飲み込めなくても、味わうよろこびを。

「飲み込む」ことだけを前提としない、新しい“食”のかたちを。私たちは、味や香り、食感を楽しむことを目指した食品・製品の研究と開発に取り組んでいきます。医療・介護の専門職、食品の作り手、研究者と手を携え、科学的な視点で安全性を一つひとつ確かめながら、“食”のよろこびを届ける新しい選択肢を生み出していきます。

※ 嚥下に不安がある場合は、自己判断で食事の形態を変更したり、食事を再開したりせず、必ずかかりつけ医や専門職にご相談ください。



監修者から　高瀬直之（看護師）

訪問看護の現場で、「もう一度、あの味を」という願いに幾度となく出会ってきました。嚥下機能を適切に評価し、その方に合った安全な方法を見出すことができれば、“食”のよろこびに再び触れられることがあります。諦める前に、まずは身近な専門職にご相談ください。

連載 RESEARCH NOW
研究のいま



「ひとりの食卓」と「誰かとの食卓」

食事を誰と共にするかは、心の健康と関係があるのでしょうか。国内の65歳以上の高齢者約3万7千人を平均約2.6年間追跡した大規模調査（日本老年学的評価研究：JAGES）が、この問いを検証しています。

独居で、かつ食事も一人でとっている男性は、独居でも誰かと食事を共にしている男性に比べ、抑（よく）うつ状態に至る割合が約2.4倍でした。女性では、同居家族の有無にかかわらず、一人で食事をとる人の方がその割合がやや高い（約1.2～1.3倍）という結果でした。

孤食（こしょく）が抑うつの「原因」とまでは断定できませんが、食事が人とのつながりを実感する大切な時間であることを示唆しています。

出典：Tani Y, et al. Eating alone and depression in older men and women by cohabitation status: The JAGES longitudinal survey. Age and Ageing. 2015;44(6):1019-1026.

連載 GLOSSARY
ことばの小事典

嚥下（えんげ）
口の中でまとめた食物や水分を、喉から食道を経て胃へと送り込む「飲み込む」働き。

咀嚼（そしゃく）
食物を歯で噛み砕き、唾液と混ぜ合わせて、飲み込みやすい状態に整えること。

不顕性誤嚥（ふけんせいごえん）
むせなどの症状を伴わずに起こる誤嚥。睡眠中に唾液が気管へ流れ込む場合などがあり、気付かれにくいのが特徴です。

嚥下調整食（えんげちょうせいしょく）
飲み込む力に合わせ、硬さやまとまりやすさ、滑らかさなどを調整した食事。

摂食（せっしょく）
食物を認識し、口に取り込み、噛んで味わうまでの一連の働き。食欲や、何をどう口にするかの判断も含まれます。

誤嚥（ごえん）
食物や飲料、唾液などが、食道ではなく気管に入ってしまうこと。通常はむせて排出しようとします。

誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）
誤嚥をきっかけに、口腔内の細菌などが肺に入り込んで起こる肺炎。高齢者に多くみられます。

共食（きょうしょく）
家族や友人など、誰かと一緒に食事をすること。一人で食事をとる「孤食（こしょく）」と対をなす言葉です。

NEXT ISSUE

次号予告

次号(Vol.2)は、2027年冬季に発行予定です。設立記念セミナー(2026年10月19日開催)の講演録などを予定しています。

QUESTIONNAIRE

ご感想をお聞かせください

株式会社 嚥下の未来

嚥下の未来　大阪サロン
訪問看護ステーション
嚥下の未来大阪 併設
〒540-0021
大阪府大阪市中央区
大手通一丁目3番6号
オキツモビル大手前3階
TEL 050-3611-8897

本社
〒540-0012
大阪府大阪市中央区
谷町3丁目2-11
FLAGSビル3階
TEL 06-6530-1777

https://enge.co.jp

STATIONS

運営事業所

訪問看護ステーション
嚥下の未来　大阪
開設準備中(2026年11月1日 開設予定)
〒540-0021
大阪府大阪市中央区大手通一丁目3番6号
オキツモビル大手前3階
TEL 050-3611-8897

訪問看護ステーション
嚥下の未来　尾張
開設準備中(2026年11月1日 開設予定)
〒486-0922
愛知県春日井市篠田町70番地
ジーメゾン勝川301号室
TEL 050-3611-4762

『嚥下の未来 booklet』Vol.1(創刊号) 2026年10月発行
発行:株式会社嚥下の未来　発行人:鈴木 征浩　編集・制作:株式会社嚥下の未来

本誌に掲載した記事・イラストの無断転載・複製を禁じます。本誌の内容は一般的な情報であり、個別の診断・治療に代わるものではありません。